「出光真子 おんなのさくひん―ある映像作家の自伝」展

家父長制を撃つ女性の視点

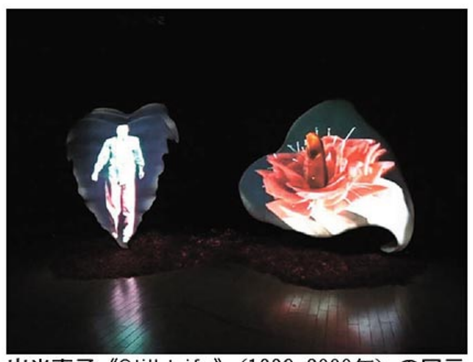
アライ＝ヒロユキ

実験映画・ビデオアートだけでなく、日本のフェミニズムアートの草分け作家として知られる出光真子。開催中の回顧展は、包括的に作品を網羅する貴重な企画だ。

多くの女性がしばしばそうであるように、出光真子も創作と「女であること」がわかちがたく結びついている。父である出光興産創業者・出光佐三の重圧と桎梏（しっこく）、抽象画家のサム・フランシスとの結婚の後はアメリカで家事、育児に追われた。募る創作への希求の突破口として、彼女は1969年からフィルム撮影に没頭する。家事のため撮影が制約されるが、それが私的エッセイのような趣も初期作に与える。

1972年のフィルム映像作品《Inner Man》（内なる男性という意味でユング心理学が参照されている）では踊る裸の男性と日本舞踊の女性が重ね合わせられる。男と女の二元論的視点、そしてそれが内面化によって複雑にからみあう権力構造のさまが、リズム感のある映像で示される。ここで彼女の二つの視点の手法が確立し、以後踏襲されていく。

初期のビデオ作品《主婦の一日》（1977年）は、出光にとって転機となった。主婦のなにげない日常を追うものだが、映像中のテレビに「目」が映し出されている。これは男性や社会の監視の目であると同時に、冷ややかに見つめる自己の視線でもあるだろう。この日常のシチュエーションは、後に母と娘、母と息子、姑（しゅうとめ）と夫婦といった家族ドラマの体裁で展開され、親族を支配し、社会通念で自縛する母性の問題が掘り下げられる。



出光真子《Still Life》（1993-2000年）の展示風景　東京都写真美術館蔵　©Mako Idemitsu

出光真子《主婦の一日》1977年　東京都写真美術館蔵　©Mako Idemitsu

ビデオアートは、1963年に韓国人のナムジュン・パイク（白南準）とドイツ人のヴォルフ・フォステルが生み出したとされる美術のジャンルだ。視覚実験やコンセプチュアル（哲学的考察）なものが主流だったが、出光はホームドラマ仕立ての日常性を導入し、ジャンルの幅を広げた。映画は複数の人数で鑑賞する公的な性格を持つが、テレビは自宅で鑑賞する私的なメディアだ。彼女のフェミニズムの視点による家父長制（男性優位）の権力構造への批判的考察の表現は、主題の性格とメディア特性をよく活かしたものだ。

出光には映像インスタレーションもある。「メシ」「フロ」「ネル」という男女の役割を想起させる音声を使った、美麗な空間構成の《Still Life》。母性と子育て問題が主題の《Real? Motherhood》。自分の家族史が体現する家父長制と旧日本軍の戦争を重ね合わせる《直前の過去》など。出光真子の視線はあくまで辛辣（しんらつ）、容赦がない。

（美術・文化社会批評）

9月21日まで、東京都写真美術館☎03（3280）0099

歩みきて

写真・安田音楽事務所

歌手・俳優

由紀　さおりさん

……第1話

1946年、群馬県生まれ。69年、「夜明けのスキャット」でデビュー。83年、映画「家族ゲーム」で毎日映画コンクールの助演女優賞受賞。新曲「恋でパラダイス／上を向いて歩こう」を8月5日にリリース予定

思春期とネオン街の匂い

戦争が終わってしばらくして、疎開先だった群馬県の桐生市で生まれました。3歳の時、横浜市鶴見区の小学校の目の前の長屋みたいなところに引っ越しました。当時、小学校の講堂を使って「ひばり児童合唱団」が音楽劇のお稽古をしていたんですね。姉（安田祥子さん）はいつもお稽古を見に行っていて、そのうち合唱団に入りました。

私はまだ小さくて、一人でお留守番はできないので、合唱団のお稽古にくっついていったというのが、全ての始まりです。何回か見に行くうちに、私も合唱団の一番年少のクラスに入れてもらえました。

当時の私たちのステージというと、デパートの屋上や遊園地でのひな祭りやこどもの日のイベントでした。私はお客さんから拍手をもらうのがうれしくて、ステージが大好きでした。ウケを狙うのが好きだったみたいで、ちょっとした人気者になりました。

小学校1年生の時に日本コロムビアレコードのオーディションに合格して、童謡歌手の安田章子としてデビューしました。姉も先に合格していましたけど、姉は将来は声楽家としてソプラノ歌手になるという道を決めていました。

§　§

中学進学にあたって母からは「これからも童謡でやっていくの？　歌を歌う職業に進みたいの？」と言われました。母は子どもたちに「どうしたいの」と聞いて、情報を集め「選ぶのはあなたよ」というやり方でした。私はクラシック音楽では姉を超えられない、私は姉のような声を持っていないと思っていたので「私は歌謡曲の歌手になりたい」と言いました。

当時は、歌謡曲といえば作曲家の先生の内弟子にならないとデビューできない時代でしたが、なんとか学校に通いながらジャズの先生のお稽古に通うことができました。30曲ぐらいジャズの曲を覚えたころかな、先生から「君はほんとうにこういう歌を歌いたいの？」と聞かれて。「歌いたいです」と答えたら、「これから先、僕のところに来て同じような歌をお稽古しても、歌はうまくなんない。歌はやっぱりお客さんの前で歌わないと本当に自分の歌にはならないよ」と言われてね。

先生が紹介する場所で修業した方がいいと言われて、紹介されたのが、銀座のモンテカルロというキャバレーや赤坂のダンスホールでした。私はまだ中学生でした。

§　§

お化粧して、夜6時半と7時半のショータイムに2曲ずつ歌って帰るという生活が始まりました。未成年なので、8時にはお店を出ないと法律に触れることになります。お客さんがいない時には自由にいろんな歌を歌えるんだけど、舞台で歌ったことがない歌をいきなりビッグバンドのリーダーから言われたりして、もう最初はなにがなんだかわからなくて。アドリブで歌うとか、そういうことを舞台で初めて経験して、歌を歌うということの原点といいますか、修羅場でしたけど、音楽は生きものだってことを感じましたね。

ただ、中学とか高校生の頃、思春期のど真ん中ですからね。表はネオンがきらきらしてきれいだけど、裏はカビの匂い、たばこの匂い、ホステスさんの香水の匂いが入り混じった、すえた嫌な匂いが漂っていて、もうそれが嫌で嫌でね。泣きながら帰っていたら、見かねた母が送り迎えをしてくれるようになりました。

（聞き手　寺田忠生）

＊金曜日隔週掲載　次回は8月14日付

ひばり児童合唱団に所属し童謡歌手として活躍

文化の話題

荒馬座創立60周年

ソーラン節の歴史掘り下げ

民族歌舞団・荒馬座が創立60周年を迎えます。９月の公演で、長年踊り継ぐソーラン節の歴史を掘り下げ、伝統と現代をつなぐ新作「ソーラン節のものがたり」を披露します。作・演出は宮河伸行さん。

ソーラン節は江戸時代末期から明治時代に北海道のニシン漁の作業歌として生まれました。シベリア抑留兵から生まれた振り付けが、劇団わらび座（秋田）を経て荒馬座に伝えられました。

一方、1990年代に歌手の伊藤多喜雄さんがロック調にアレンジした「ＴＡＫｉＯのソーラン節」が登場し、北海道の稚内南中学校で生まれた「南中ソーラン」の踊りが大流行しました。

公演では伊藤さんとＴＡＫｉＯＢＡＮＤの演奏で、初めて荒馬座がロック調のソーラン節も踊ります。

「ソーラン節のかけ声は、民衆の息遣いから生まれたかけ声。みんなが団結し、戦争に反対する声にもつながると思っています」（宮河さん）

＊荒馬座創立60周年記念企画「伊藤多喜雄＆荒馬座ジョイントコンサート」　９月23日午後５時、東京・板橋区成増アクトホール。☎03（3962）5942（荒馬座）

歌壇

変わらないもの

米川千嘉子の第11歌集『スナバコノキ』は年齢で言うと60代前半から半ばくらいまでの歌を収める。社会や事件を詠んだ歌と家族を詠んだ歌の二つが魅力だが、後者をとりあげたい。

・点滴は何日間もつづく
　雨　雨のながれる夫と
　話す

・この人は光合成をして
　をらむ病室の窓辺でまた文を書く

入院する夫を詠む。点滴を雨にたとえた点に感性が光る。雨が降る外の景色を眺めるように夫を見る妻。夫と妻との間にはまるで窓があり、線が引かれているようだ。その距離感は、病気の夫の前で平静を保つ妻の強さであり、優しさだ。夫は歌人で理系の研究者。入院中も文章を書き続ける。病気をもエネルギーにかえるように書く。植物が光合成で生む酸素が地球の生命にとって重要であるのと同じく、入院中の夫が記す文章も誰かに必要とされているのだ。

・たつぷりと指を濡（ぬ）らして桃をむく身体性を母はうしなふ

老いた母は自分で桃をむくことがなくなった。果物の瑞々（みずみず）しさを自らの身体で感じられることの尊さに気付かされる。

・若き家族は手をしなやかに動かせり抱へて撫（な）でて揺するしろい手

若い親子を見て自分にもあった子育ての時間を思う。あの頃のこの手は子を抱え、撫でていた。

・長い散歩をしてきただけの私たち子もあたらしい散歩に出たり

60代となり作者も家族も変化を迎えた。息子の結婚を詠んだ歌もある。しかし変わらないものもある。散歩に出た人が必ず家に戻るように、家族として根底でつながっているという信頼だ。

（屋良健一郎・歌人）

映画

「ハワの手習い」（写真上）　アフガニスタンのドキュメンタリー。女性ジャーナリストのナジーバ・ヌーリ監督は2019年、母ハワの撮影を始めます。13歳で30歳上の男性と結婚させられ、6人の子を産み、夫の世話に追われるハワ。彼女は娘の自立を望み、全力で教育を受けさせました。母の味方になり、愚痴や秘密の話を聞く監督。やがてハワは夢だった、民族手芸と読み書きの勉強を始めます。しかし21年、米軍が撤退。タリバン復権で夢は踏みにじられ、監督にも危険が及んで―。女性解放へ満身の叫び。1日から東京・ポレポレ東中野ほかで公開、順次全国で。

「ヒトラーの毒見役」（写真下）　体験者の証言に基づくドラマ。1943年、ベルリン近郊。出征中の夫の帰りを待つローザ（エリーザ・シュロット）は総統大本営に呼び出され、ヒトラーの食事の毒見役を命じられます。女性メンバー7人で、命がけで料理を食べる日々。ヒトラー暗殺未遂など混迷を極めるなか、戦況は最終局面を迎え―。戦争の知られざる一断面から見えるものは。シルヴィオ・ソルディーニ監督。31日から東京・新宿武蔵野館ほかで公開、順次全国で。

演劇

新国立劇場演劇研修所第20期生公演　朗読劇「風が吹くとき」（写真上）　訳＝さくまゆみこ、演出＝田中麻衣子。「スノーマン」の作者レイモンド・ブリッグズの絵本を基に制作。イギリスの地方の町で暮らす夫婦のもとに世界戦争勃発と核ミサイル飛来の一報が届いて…。出演＝第20期生の9人と立川義幸、斎藤大雅、菊川斗希。8月8～11日、東京・新国立劇場小劇場。☎03（5352）9999

2024年公演より、宮川舞子撮影

劇団東演「朗読劇　月光の夏」（写真下）　原作・脚本＝毛利恒之、演出＝鈴木完一郎、原田一樹。戦後45年の佐賀県鳥栖小学校。かつての教師・吉岡は、廃棄が決まったピアノにまつわる思い出を語り始めます。出演＝能登剛、仲道祐子（ピアニスト）ほか。8月8～9、15日、東京・東演パラータ。☎03（3419）2871

移動演劇桜隊　原爆殉難者追悼会　▽朗読『桜隊全滅』を書いて―仲みどり追跡」▽YouTube番組上映「亡びるな　生きろ　俳優・丸山定夫と桜隊の青春」▽コンサート「平和への祈り」。8月6日午前10時、東京・天恩山五百羅漢寺。問い合わせhttps://sakuraataiidouengek.wixsite.com/kinenkai/contact-8まで

音楽

おどる絵本「みえるとか　みえないとか」　8月16日午後1時、神戸文化ホール。原作＝ヨシタケシンスケ／伊藤亜紗『みえるとか　みえないとか』。振付・構成・演出＝スズキ拓朗。出演＝スズキ拓朗、小林らら、青井想（以上CHAir oiPLIN）、稲葉由佳利、鳥越勇作、山下直哉、オクダサトシ。埼玉、東京、大分、福岡、熊本、神奈川、茨城へ巡演。☎078（351）3349（神戸文化ホールプレイガイド）

ミュージカル「アニオー姫」（写真）　9月12～27日、KAAT神奈川芸術劇場。総監督／演出／台本／作詞（日本語）＝大山大輔。作曲＝チャン・マィン・フン。台本／作詞（ベトナム語）＝ハー・クアン・ミン。振付＝本間憲一。アーティスティックアドバイザー＝本名徹次。出演＝田代万里生、小野田龍之介、音くり寿、ドー・ファン・ザ・ハンほか。400年前の日越両国の史実をもとにしたベトナムの姫と日本の商人との愛の物語。☎0570（015）415（チケットかながわ）

音楽詩　吉岡しげ美七夕コンサートVol.29茨木のり子生誕100年（追加公演）　8月2日午後1時、東京・六本木CLAPS。ゲスト＝山根基世（アナウンサー）茨木のり子の詩を朗読、林家きく姫（落語家）朗読と歌。演奏＝町田正行（チェロ）、足立浩（パーカッション）、加塩人嗣（サックス＆フルート）。☎03（6421）1263（CLAPS）

美術

高浜利也　目黒でいえあつめ（写真上）　8月30日まで。「いえあつめ」をテーマに制作する銅版画家。造作大工の仕事の経験を生かし、さまざまな土地で出会う人々との積み木の「まちなみ」づくりにも取り組んでいます。初期から新作までの銅版画作品や小学生たちと制作した積み木の「まち」などを展示。目黒区美術館　東京都目黒区目黒2の4の36☎03（3714）1201

目黒区美術館での展示風景

三島樹一展　たねから宙へ（写真下）　9月13日まで。「豆」をテーマに木で彫刻を制作し、豆の持つ生命力や包容力、大地の力などを表現。作品に触れて鑑賞できます。川越市立美術館タッチアートコーナーほか　埼玉県川越市郭町2の30の1☎049（228）8080

三島樹一《MASS》2011年　江崎義一撮影

第60回記念埼玉平和美術展　8月4～9日。主催＝埼玉平和美術会。特別展示＝芳賀猛夫（絵画）、若林眞子（同）。埼玉県立近代美術館地下展示室　さいたま市浦和区常盤9の30の1。☎090（3919）0816（亀山）